

審議会において科学的知見に基づき検証すべき事項①② 地球温暖化に伴うイチョウの衰退と地下水遮断の影響に関 する科学的調査・

イチョウの衰退については、2022年12月26日に日本イコモス国内委員会が、樹木医の協力のもと、公表を行いました。これに対して事業者は、この事実を一切認めず、「すべてのイチョウが健全である」とする環境影響評価書を2023年1月20日に提出されました。

2023年1月30日、東京都環境影響評価審議会は、これを受諾し、同年2月17日、同事業の施行認可が行われ、樹木の伐採が新宿区長により許可されたところです。

しかしながら、2024年9月9日の事業者のプレス発表では、衰退が既に2022年以前より始まっていることが、事業者サイドの樹木医の見解として報告され、イコモスの調査と一致いたしました。

2024年10月21日の東京都環境影響評価審議会において、事業者は、この事実を説明せず、2023年5月より事業者が開始した調査報告書に基づいてイチョウの衰退を認めましたが、2023年1月20日提出の「環境影響評価書の虚偽」を認めることはありませんでした。審議会でもこの重大な「虚偽の申請」については、不問に付され、審議は行われませんでした。

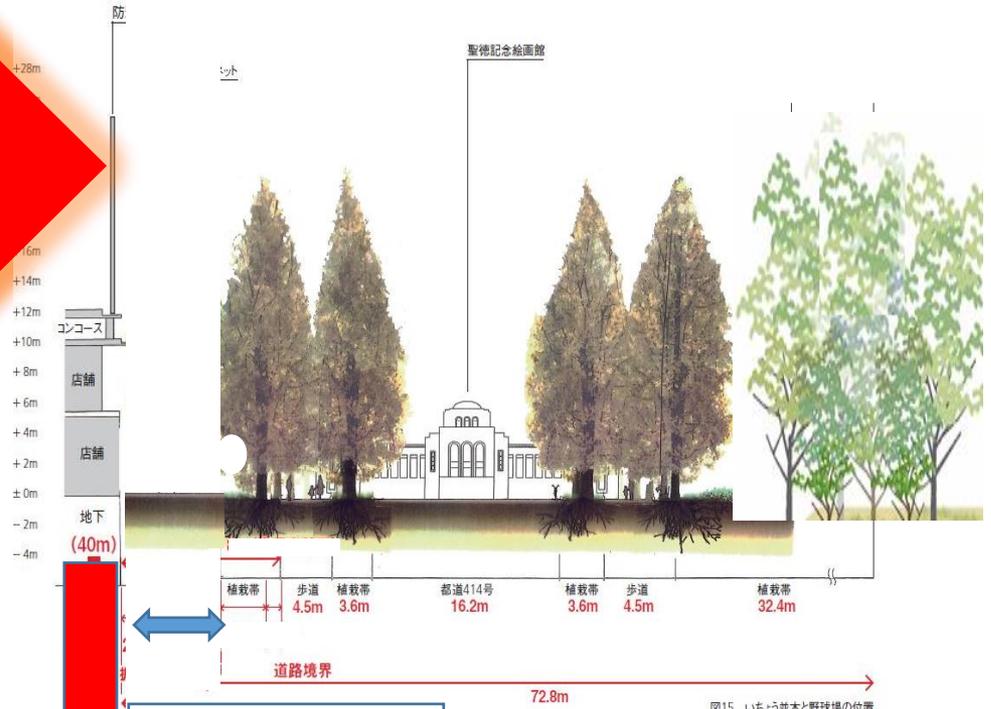
イチョウ並木の保全是、市民、事業者、東京都が原則としており、開発により「環境に重大な影響を与える」ものであるため、再審が必要です。

外苑の文化的資産Culutral Heritage 「近代風景式庭園」の破壊 神宮球場の建設に伴う 外苑を代表する美しいイチョウ並木への負荷

伊藤忠商事
190m

三井不動産
185m

巨大な熱源
ヒートアイランド
現象の増大



事業者
現在の案より
10mセットバック

外苑は、20世紀初頭の“都市美運動”を背景として
創り出された「近代風景式庭園」の名作。
絵画館前の広大な芝生広場へのエントランスとし
てのシンメトリー（左右対称）の美

日照悪化

ホテル付
神宮球場
60m

ビル風
風害

地下杭 40m
神宮球場

並木 A 列	高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-11 毎木調査番号 29	23.0	283	10.0	d 梢・樹幹枯損

2022年12月
衰退は明らか。
イコモス調査を公表

2023年1月20日
事業者：イチョウはすべて
健全とし、環境影響評価書
を提出

2023年1月30日 アセス審議
会受理

2023年2月17日 東京都施行
認可、伐採許可

2024年9月9日 事業者樹木
医、衰退を認める報告

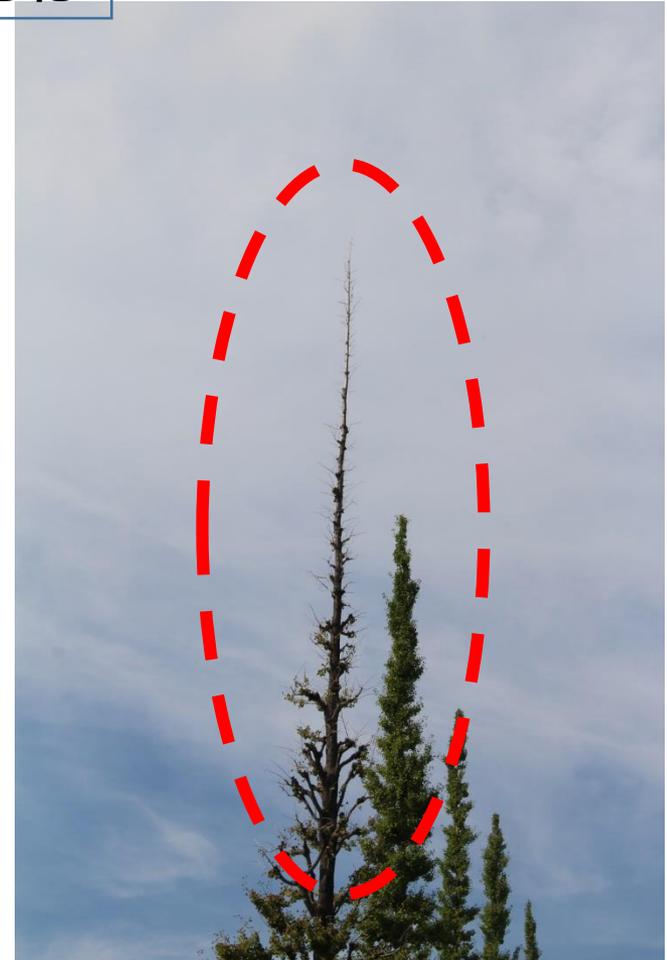
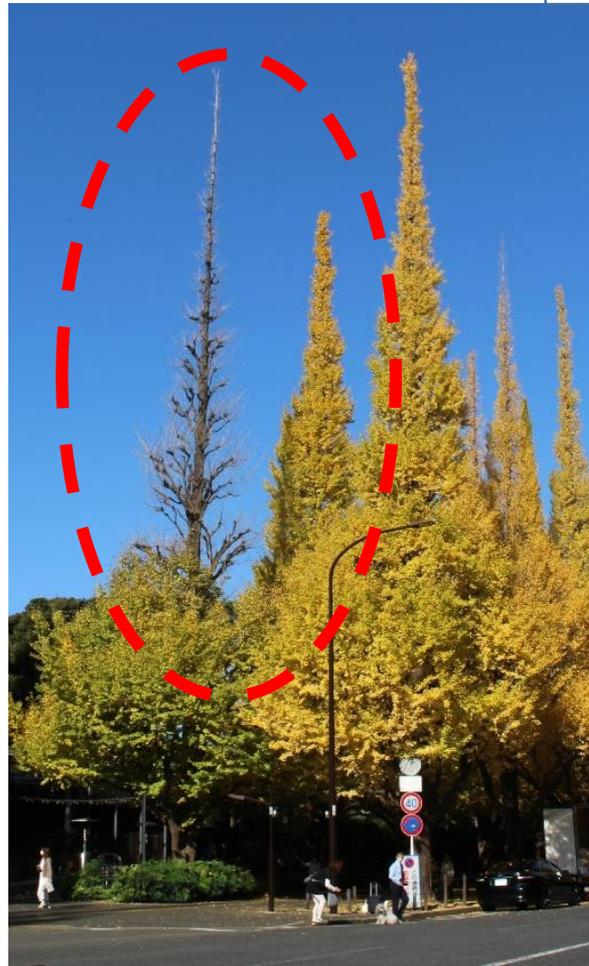
2024年10月21日
事業者、2023年1月の虚偽の
報告の事実を説明せず。
審議会でも、検討されば
かった。

2022年11月7日



更に悪化

2024年9月19日





並木 (青 向	A 列目 (口から絵画館 左手より)	樹高 (m)	幹周 (φ)	葉張り (m)	評価
A-2 2 毎木調査番号 40		24.0	215	10.0	C- 要 意

2022年 11月 7日

2023年 7月 27日

2024年 9月 19日
更に悪化



灌水



検証すべき事項③

ラグビー場の建設による「保存緑地の持続的維持の検証」

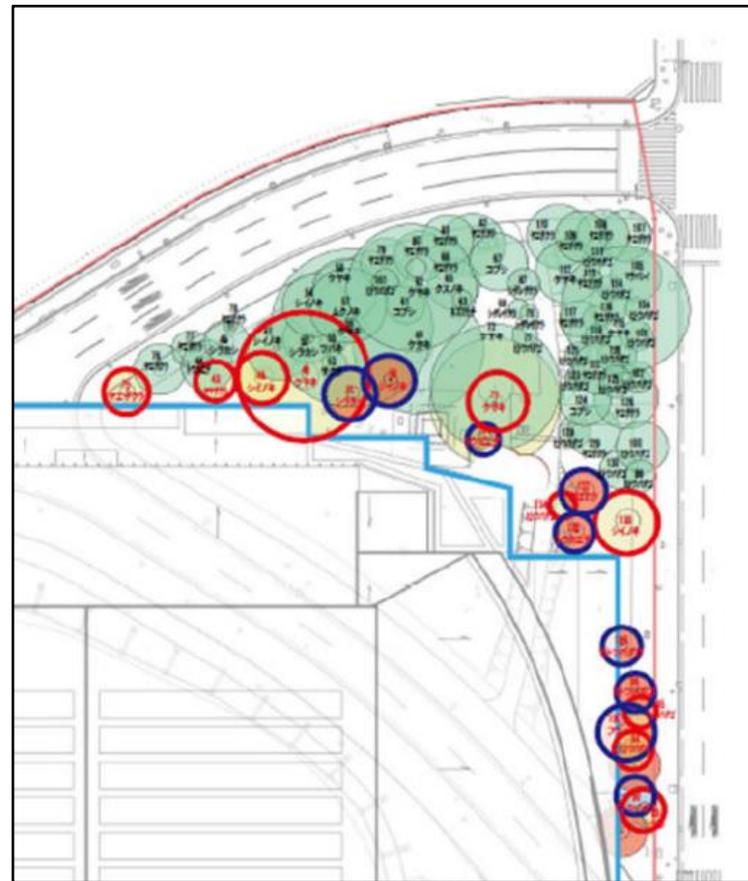
保存緑地の木はヒトツバタゴ、ヤエザクラ、シダレザクラ、ヤマザクラ、ケヤキ、クロマツ等の日照を必要とする「陽樹」である。

スダジイ（3本）、シラカシ（2本）などの「陰樹」は少ない樹林地である。

日影図と樹の種類を合わせて考察し、保存緑地が持続可能であるかどうかの、樹図の判断が必要であるが、この点が欠落しており、再審が必要である。

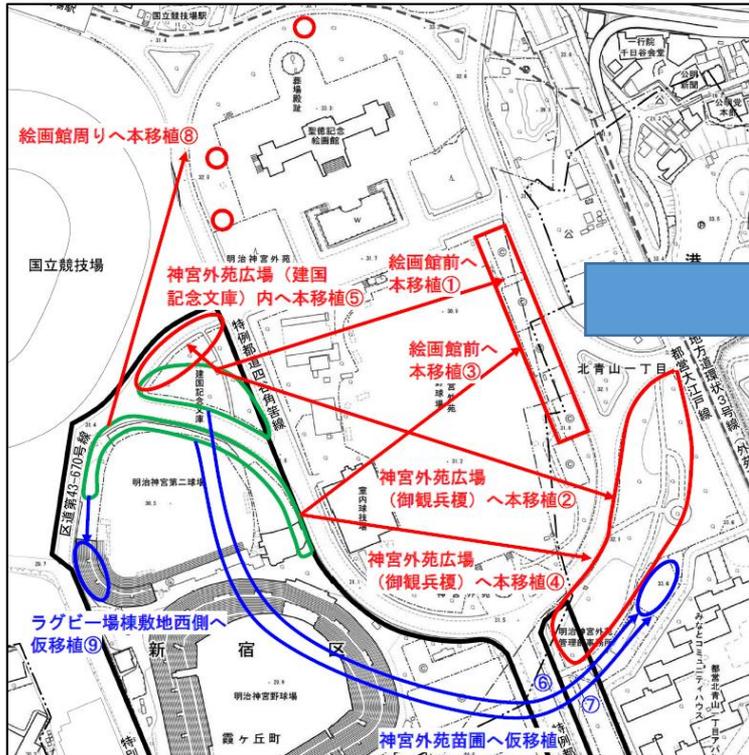
なお、事業者報告において、事後、群調査をおこなうという説明があったが、ラグビー棟の建設により生じる影響を評価することが「環境影響評価」であるので、事後ではなく、評価書に記載しなければならない。

なお、モニタリング・サイトは定点を設定し、保存緑地として維持する必要があるが、示されていない。



検証すべき事項④⑤

芝生広場の本移植地の図面が公表されず、審議に必要な客観的資料が提示されなかった。芝生広場の面積の減少に対して、図面に基づく説明が行われなかった。



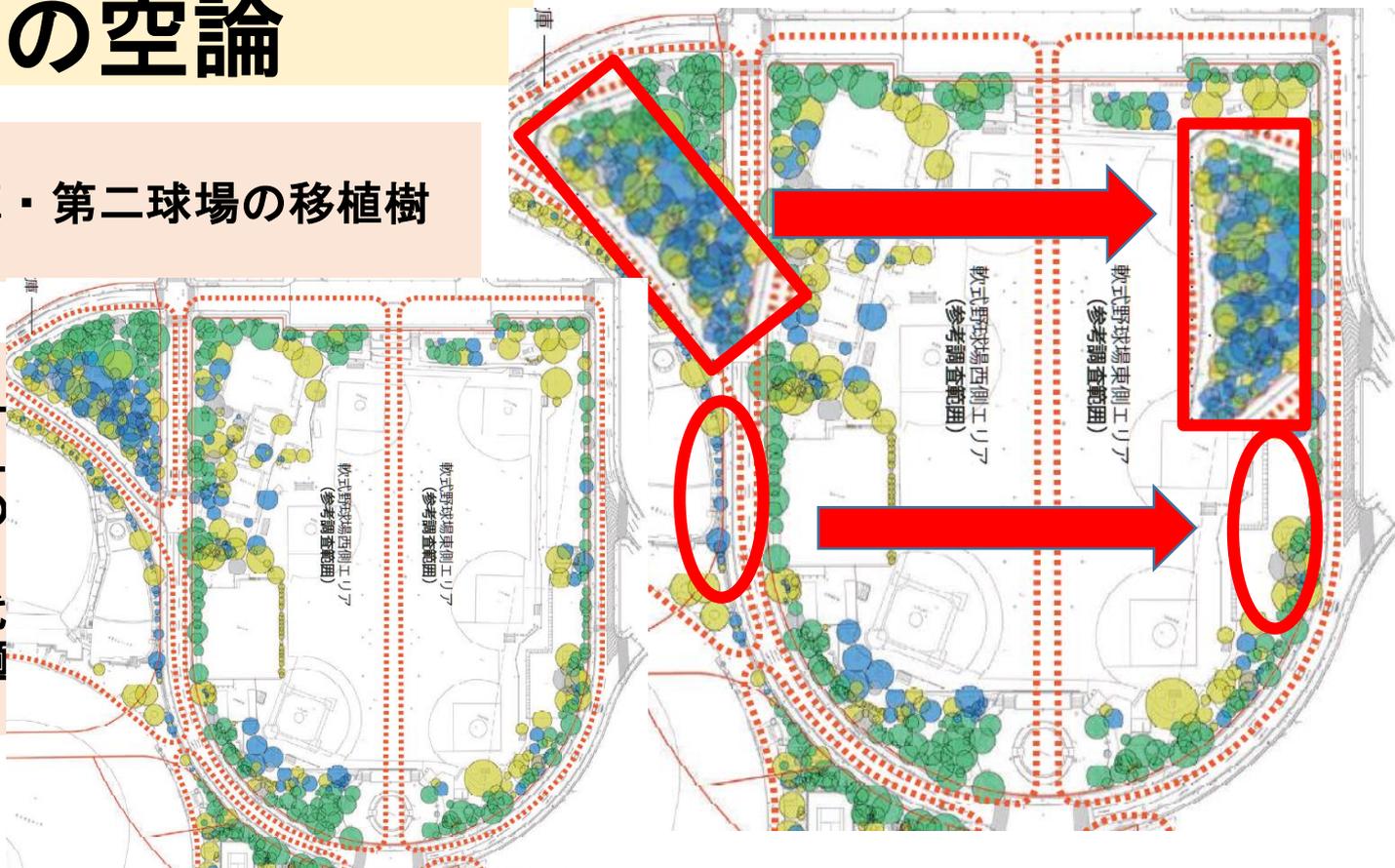
出所：第7回東京都環境影響評価審議会総会
2024年10月21日

移植樹木の植栽地として10月21日の審議会で報告されたエリアのこれまでの計画図。テニスクラブが建設され、樹木は1列のみ

机上の空論

建国記念文庫・第二球場の移植樹

- ・ 植栽スペース
- ・ 会員制テニ
- ・ 芝広場の
- ・ には撤
- ・ 外苑の近代
- ・ の究



移植樹
建国記念文庫
24本
第二球場13本

KE-017	ケヤキ
KE-018	フウ
KE-019	フウ
KE-020	シイノキ
KE-022	クスギ
KE-025	ケヤキ
KE-026	クスノキ
KE-031	クスノキ
KE-033	ケヤキ
KE-035	シラカシ
KE-036	シイノキ
KE-038	トウカエデ
KE-041	ヒトツバタゴ
KE-048	シイノキ
KE-084	シラカシ
KE-088	ウバメガシ
KE-136	シラカシ
KE-140	エノキ
KE-141	ケヤキ
KE-151	フウ
KE-158	エノキ
①計	24本

移植先：

③ 絵画館前へ本移植

番号	樹種名
YG-024	マテバシイ
YG-028	マテバシイ
YG-064	シイノキ
YG-093	シイノキ
YG-101	シイノキ
YG-105	ウバメガシ
YG-134	ケヤキ
YG-135	ヤマモモ

③計 8本

移植先：絵画館周りへ本移植⑧

番号	樹種名
YG-042	シイノキ
YG-111	ヤマモモ
YG-137	ヤマモモ

⑧計 3本

移植先：ラグビー場棟敷地西側へ仮移植⑨(又は神

●	保存樹木
●	移植樹木
●	伐採樹木
●	枯損等
●	移植検討樹木

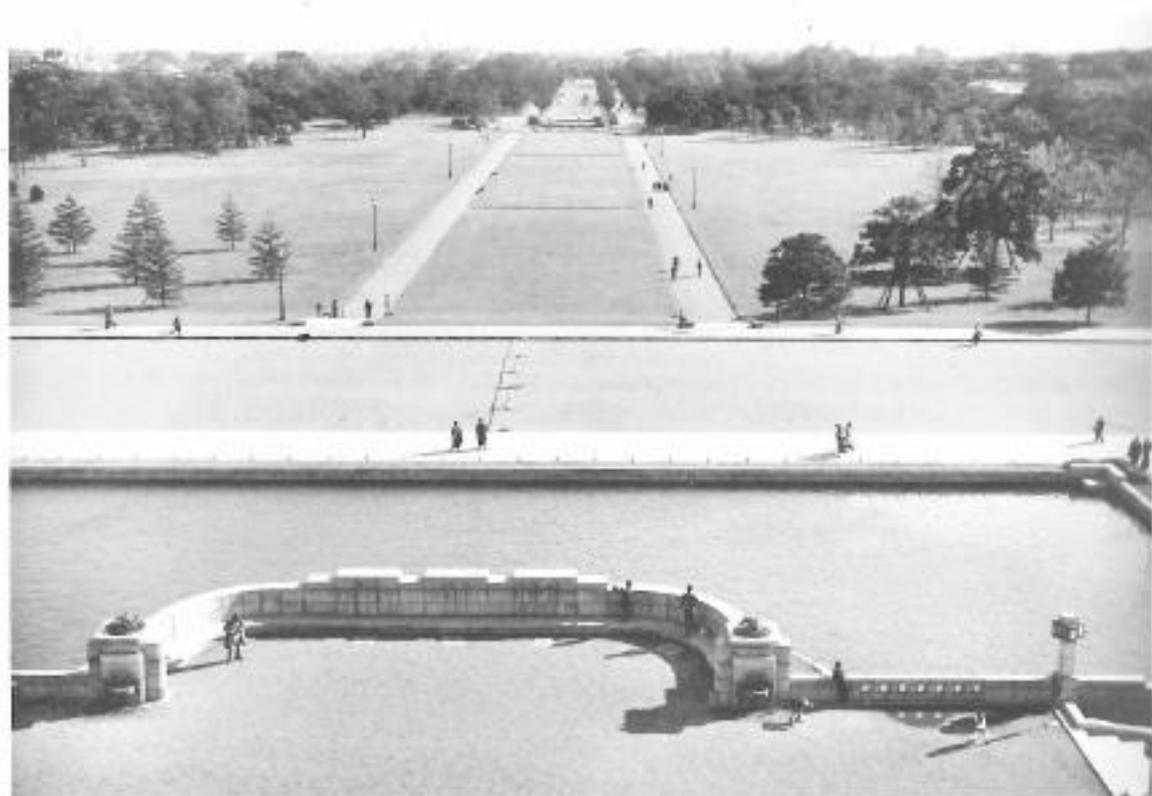
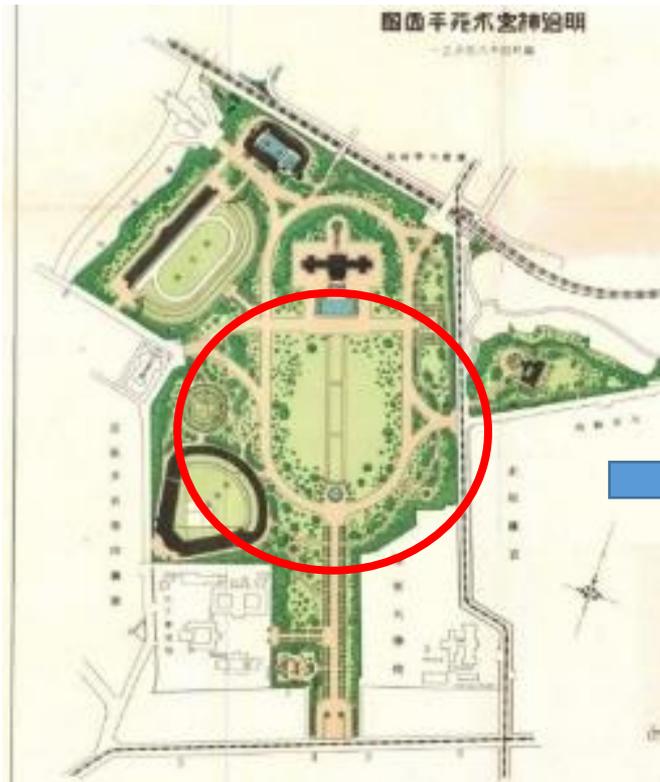
※枯損等：結核・倒木・維持管理上撤去等となった樹木

外苑：日本を代表する近代風景式庭園

CULTURAL LANDSCAPE

コアが芝生広場とこれを囲む樹林地

疎から次第に密度を増していく構成



検証すべき事項⑥

芝生広場（風致地区A）における歴史的樹木の大量伐採

歴史的樹木は判読可能

昭和20～25年にかけて米軍が撮影した外苑

戦災でも焼け残った創建時からの樹木を判読することができる。

芝生広場縁辺部

・自然風景式庭園の疎林

建国記念文庫の森、相撲場 第二球場

・自然風景式庭園の外縁を構成する樹林地

【出典】

国土地理院(2022)：年代別の写真,
https://maps.gsi.go.jp/#17/35.676076/139.721503/&base=std&base_grayscale=1&ls=std%7Cort_USA10&blend=0&disp=11&vs=c0j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0&d=m, 2022.2.14閲覧

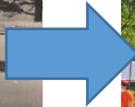
・撮影...1945～1950年

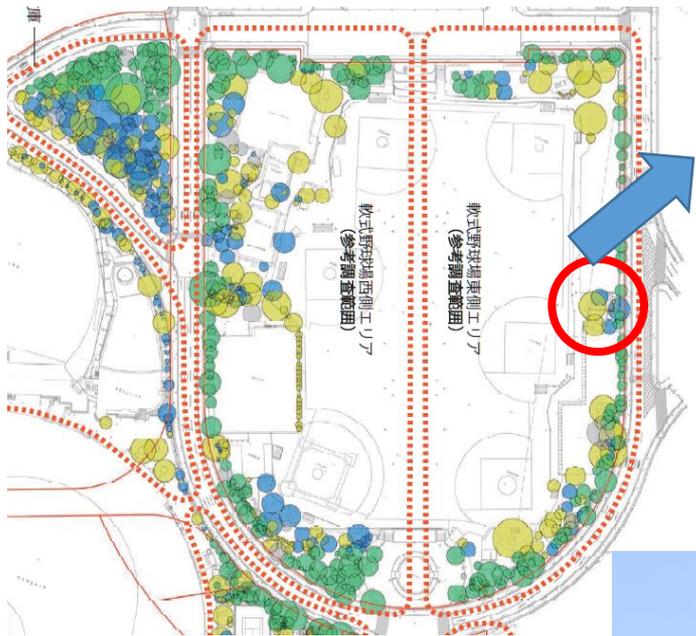




● 枯損等：枯損・倒木・堆積物管理上除去等となった樹木

会員制テニスコート整備により伐採されるヒマラヤシーダー、ケヤキ。風景式庭園の芝生広場の境界を構成する重要な樹林地





会員制テニスコート、及び移植樹により伐採されるトチノキ、移植されるシラカシ、ヒマラヤシーダー（創建時よりの樹木）

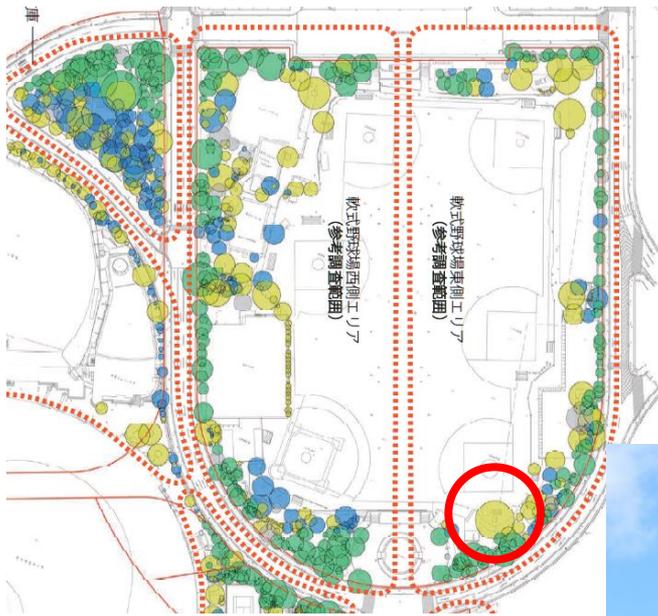
創建時より生育している樹木を何故伐採、移植し、建国記念文庫からの移植樹を植えるのか？明確な説明が必要。

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等
- 移植検討樹木

※ 枯損等：枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木



会員制テニスコート整備により伐採される大イチョウ



- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等
- 移植検討樹木

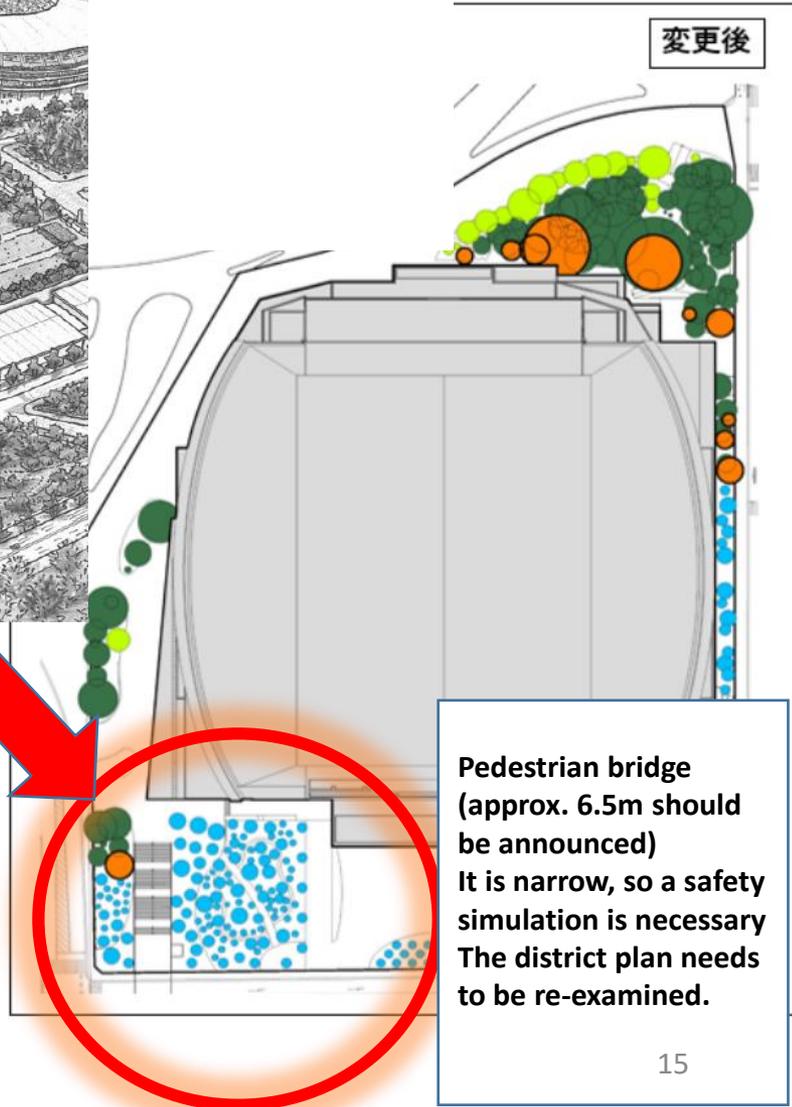
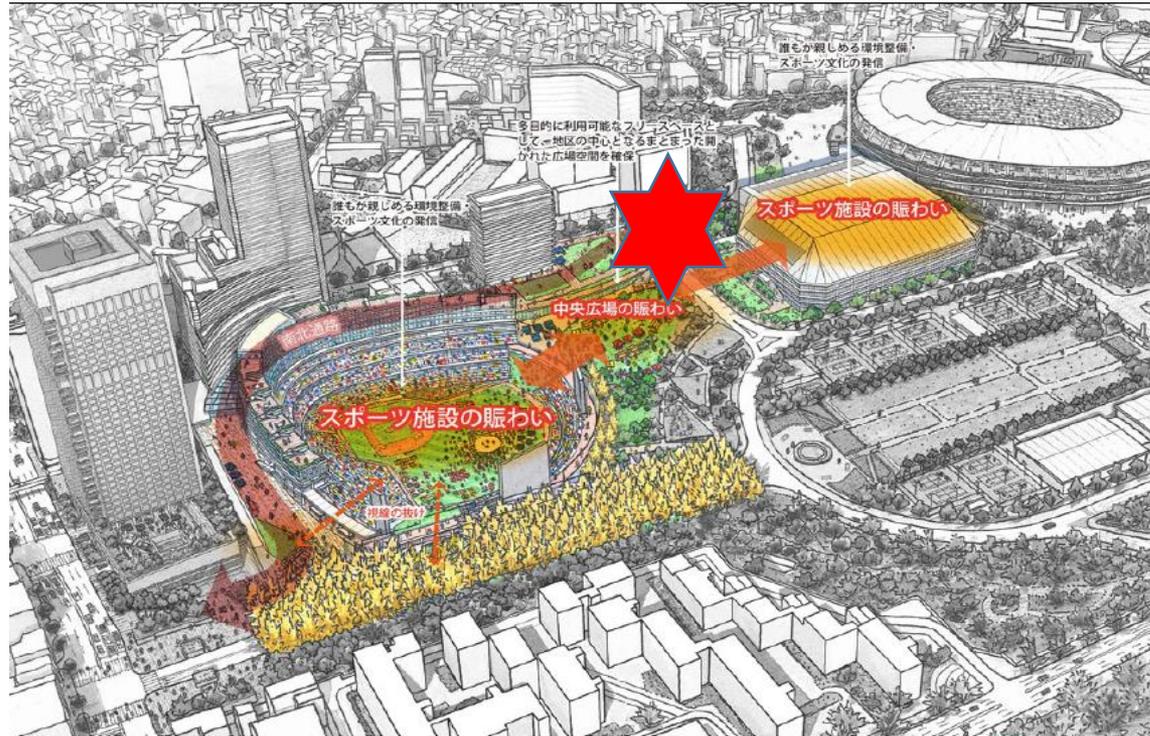
※ 枯損等：枯死・倒木・維持管理上除去等となった樹木

霞ヶ丘門、及びスタジイの保全：検討が行われなかった⑦



安全性の検証⑨

狭い歩道橋 シミュレーション必要、



Pedestrian bridge (approx. 6.5m should be announced)
It is narrow, so a safety simulation is necessary
The district plan needs to be re-examined.

秩父の宮ラグビー場入口のイチョウ 報告が行われなかった。⑧

□港区道 1107 号線沿いの銀杏の移植検討



・下記の理由により適切な根鉢確保が難しいため、港区道 1107 号線沿いの銀杏の移植は困難であると考えられる。

① 植栽帯方向の根系の状況

根系は根の伸長に適した土壌基盤がある植栽帯に沿って主に伸びていると考えられる。根元の肥大(写真①)から見ても、植栽帯に根が集中し、長く太く伸びている可能性が高い。

② 歩車道側の根系(写真②)の状況

歩道側及び段差のある車道側では、舗装下の碎石層等の基盤が根の伸長可能硬度を超えていると想定される。

③ 細根の適切な確保について

根回しを根系に合わせ、鉢規格、形状も可能な範囲で柔軟に行った場合においても、現状の樹形、樹体を維持できる細根成長が期待できるか不明である。そのため、移植前の根回し時に枯れる場合や、移植活着しても樹体全てが維持できず、樹形の一部枯死も起こり得る。



土塁

事業者の主張する
再開発事業の大義

内苑の緑を護る

不可能
問題の根源

小川枯渇
深刻な水不足
ナラガレ

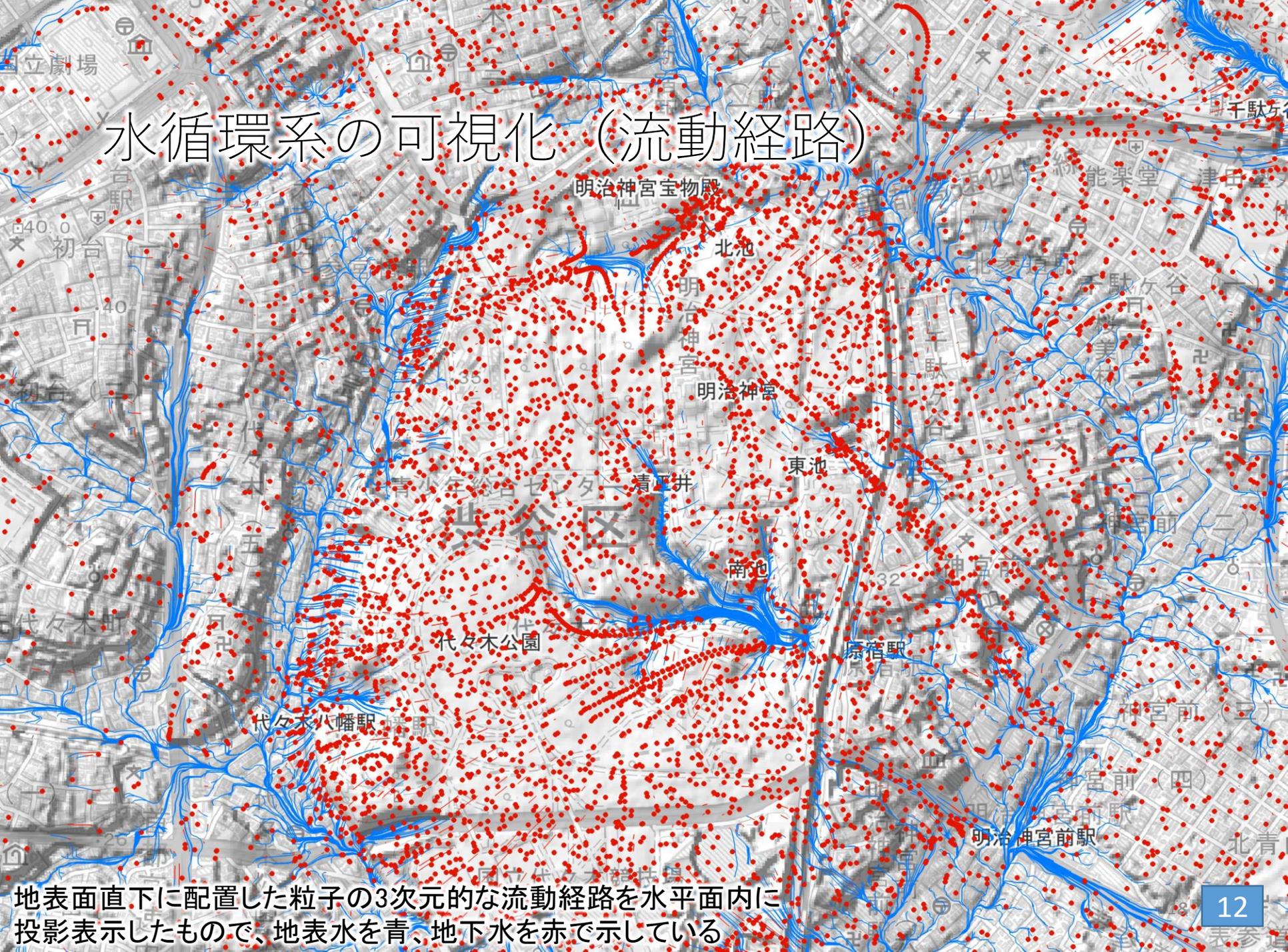
ナラガレの
蔓延



調整池
1920年代建設



水循環系の可視化（流動経路）



地表面直下に配置した粒子の3次元的な流動経路を水平面内に投影表示したもので、地表水を青、地下水を赤で示している